

研究支援部門

4月

- 研究支援部門 支援事業募集(2022年3月～)
 - ◇ 国際学会発表支援
 - ◇ 学術論文外国語添削料補助
 - ◇ 大学院生学会発表支援
 - ◇ 科研費A評価再チャレンジ支援
 - ◇ 登録研究会支援
- 重点領域研究支援事業を開始(マーケティング分野)
- 小樽商科大学出版会出版企画提案書の募集(通年)

5月

- 登録研究会への支援事業採択通知(採択数：2件)

6月

- グローカルプロジェクト推進公募
(募集期間：6月30日～7月14日)

グローカルプロジェクト推進公募は、グローバル時代における地域(北海道)の教育研究拠点として、地球規模の視野で考え、地域視点で行動するグローバル人材の育成に資する教育研究プロジェクトを学内公募し、研究費を助成している。

今年度は教育ビジョン・研究ビジョン・社会貢献ビジョンの3つのミッションに資するプロジェクトを対象とし全学的に公募を行い、教育ビジョン2件、研究ビジョン3件のプロジェクトに助成を行った。

7月

- 商学討究第73巻1号刊行

8月

- 科研費申請書作成支援(民間URA機関による添削)(～9月)
- グローカルプロジェクト推進公募採択通知(採択数：5件)

9月

- 科研費申請書作成支援(学内教員による添削)
- 科研費申請書作成支援学内説明会manabaコース開設
- グローカルプロジェクト「社会連携実践Ⅲa：上川大雪酒造ゼミ」において、現地実習を経て大学内にて上川大雪酒造の取締役会を開催

11月

- 小樽商科大学出版会出版企画提案書採択通知(採択数：2件)

12月

- 商学討究第73巻2・3号及び人文研究第144輯刊行
- 小樽商科大学出版会出版企画提案書の募集(～2023年8月)

3月

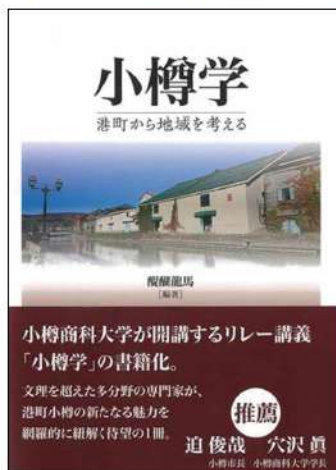
- 商学討究第73巻4号及び人文研究第145輯刊行
- 小樽商科大学出版会事業 2冊刊行
※詳細は22ページ参照
- グローカルプロジェクト「リニューアル版榎本石嶮の開発と商品化検証」において、市民対象のシンポジウムを開催 ※詳細は23ページ参照



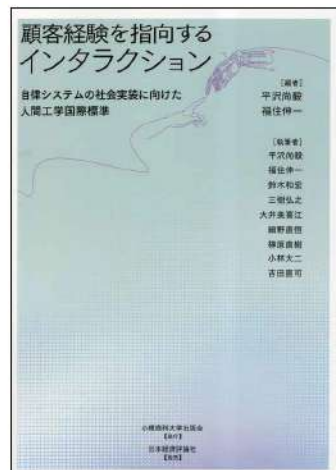
3月19日開催のグローカルプロジェクトシンポジウム
「地域密着型大学における文理融合研究の最先端
—小樽商大発 榎本石嶮—」の様様

出版会 研究支援部門出版図書

2023年3月、小樽商科大学出版会から2冊の書籍を刊行しました。



書名：小樽学 ―港町から地域を考える―
著者：醍醐 龍馬
(小樽商科大学商学部一般教育系准教授)



書名：顧客経験を指向するインタラクション
自律システムの社会実装に向けた人間工学国際標準
著者：平沢 尚毅 (小樽商科大学商学部社会情報学科教授)
福住 伸一

「グローバルプロジェクト推進公募事業」採択事業一覧

CGSでは、本学の中長期ビジョン・戦略に資するプロジェクトに対して助成を行う学内公募事業「グローバルプロジェクト」を実施しています。2022年度の採択事業は以下のとおりです。

採択プロジェクト名	プロジェクト代表者
リニューアル版榎本石鹼の開発と商品化検証 ―化学と歴史学による文理融合研究―	一般教育系 教授 沼田ゆかり
正課授業「社会連携実践Ⅲa：上川大雪酒造ゼミ」	副学長 江頭 進
小樽から世界へ ―国際法模擬裁判JAPAN CUPへの挑戦	企業法学科 准教授 張 博一
大規模な人為的攪乱に対する山菜の応答とその波及効果	一般教育系 准教授 片山 昇
旭川家具産業集積における 中小企業の進化プロセスと価値実現	商学科 教授 林 松国

PICK UP 1 リニューアル版榎本石鹼の開発と商品化検証 ―化学と歴史学による文理融合研究―

本プロジェクトでは、本学の前身である小樽高等商業高校の誘致に関わったとされる榎本武揚が書き残した「石鹼製造法」及び榎本の兄が創設した江水舎が開発した石鹼を元に、リニューアル版の榎本石鹼を開発した。

歴史学、化学をそれぞれ専門とする教員が共同で取り組むことで榎本石鹼の歴史的背景や当時の市場価値を明らかにしながら、石鹼製造方法を読み解いた。リニューアル版の榎本石鹼では泡立ちを改良するとともに商品化に向けて実験室レベルでの製造から業者への委託製造を行った。

2023年3月に開催したシンポジウムでは石鹼を無料配布し研究成果を広く発信することで、地域へプロジェクト成果を還元した。開発した石鹼は、地域活性化の新たな材料となることが見込まれている。



PICK UP 2 正課授業「社会連携実践Ⅲa：上川大雪酒造ゼミ」

「上川大雪酒造ゼミ」は、緑丘工房株式会社・上川大雪酒造株式会社の協力を得て、日本酒醸造を通じた地域資源の高付加価値化に加え、市場調査を踏まえた製品企画・クラウドファンディング等の資金調達、ECでの販売によるチャネルマネジメント等、さらにそれらを通じた地域ブランディングと地方創生ビジネスについて一貫して学ぶものであり、今年度は31名が履修した。

事前学修として、座学で起業のための知識やノウハウについて学び、2022年6月18日～20日に上川、同年7月9日～11日に帯広にてそれぞれ実習を行った。

加えて、事後学修として本学内で上川大雪酒造公開役員会を開催し、事業収支報告等を学ぶことで、本学の既存カリキュラムにある会計、マーケティング、流通及び労務管理を学ぶ意義について学生がより具体的に実感することに繋がり、企業経営にかかわる俯瞰的な視野を育成できたといえる。



PICK UP 3 小樽から世界へ ―国際法模擬裁判JAPAN CUPへの挑戦

張准教授が担当する国際法ゼミでは、2022年に国際法模擬裁判大会JAPAN CUPに初出場し、世界中のロースクールで活用されている教育手法である「模擬裁判」を体験した。

前回大会では、好成績を収めたものの、国際法の基本的知識の不足や口頭弁論の経験不足といった課題が浮き彫りとなり、それらの課題を克服するためJAPAN CUP上位常連校である横浜市立大学との合同ゼミを実施した。合同ゼミでは、模擬裁判に向けた事前準備について学んだほか、自由権規約やテロ関連諸条約などを題材としたプレゼンテーションやディベートを行い、口頭弁論の経験不足を解消し、国際法の基礎知識の向上に繋がったといえる。

